

## <心を動かされる神>

ルカ7：11～17

\*死んだ人をよみがえらせたイエスキリストの奇跡 3人

7章1～10節・・・百人隊長(ローマ兵)のしもべのいやし 場所：カペナウム

11～17節・・・やもめの一人息子のいやし 場所：ナイン

カペナウムからナインの町へ、弟子たちだけでなく多くの群衆が、御業を期待してイエス様の後について同行した。

イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかつぎ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。【12節】

### ・やもめとなった母親

夫を失い、女手ひとつで息子を育ててきた。

そして今、息子まで失ってしまった。

### ・息子の死

生きる上での心の支えを失った。

働き手の死は、生活の保障を失うこと。これから先の生活への不安が募る。

一人で生きていかなければならないという寂しさ、失望感。

これらが、この母親の目前にあった現実。

主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい」と言われた。【13節】

かわいそうに思い・・・「腸・はらわた」に由来する。

腸を突き動かされる、内臓を動かされる。

イエス様はこの母親の何をご覧になったのか・・・？

主は「ご覧になる方」そして、かわいそうに思いあわれんでくださるお方。

◆ギリシャ人たちはこのギリシャ語を、自分達のギリシャの神々に当てはめて使うことはしなかった。 何故？

しかし、イエスキリストは

苦しみ、悲しみの現実をご覧になるお方。かわいそうにと、心を動かすお方。ご自分のほらわたがかき回される程に痛んでくださるお方。このイエスキリストが共におられることに気づいているだろうか・・・。

そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、起きなさい」と言われた。すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。【14、15節】

・カペナウムで起こった奇跡

百人隊長の部下のいやし。「ことばの権威」をよく理解していた百人隊長の信仰によった。

・ナインの町での奇跡

「青年よ。あなたに言う、起きなさい」。

イエスキリストの権威あることばによって命じられ、それが証された。

◆この奇跡が起こったのは、イエスキリストが十字架の死に打ち勝たれて復活されるお方、その方だから。

◆イエスキリストの復活の力は、死者の復活だけでなく、神を信じて生きるクリスチャンの信仰生活においても力強く生きて働く。そして苦しみや困難に対する立ち向かい方に影響を与える。